

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|---------|-----------|
| 事業所番号 | 4091400228 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人実寿穂会 | | |
| 事業所名 | グループホームポート野芥 | | |
| 所在地 | 福岡市早良区野芥8丁目7番1号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年11月3日 | 評価結果確定日 | 令和3年1月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------|------------------|---|
| 評価機関名 | 株式会社アール・ツーエス | | |
| 所在地 | 福岡市南区井尻4-2-1 | TEL:092-589-5680 | HP: http://www.r2s.co.jp |
| 訪問調査日 | 令和2年12月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者が、「今を生きる」を理念に、ご自分の存在についてどのように感じ、どのように生きようとしてされているかを、知りたいと思うことに努めます。さらにご本人の「やりたい・出来るかもしれない」、楽しみにしていることを、発揮していただけるように支援を行い、お一人お一人の「思い」や家族の「願い」を実現するケアを実践します。
ご家族や地域の皆様にも支えていただきながら、あたたかで安心できる暮らしを創ることを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポート野芥」はH27に開設された単独型2ユニット事業所で、母体法人は長崎にあるが、系列で福岡市内にも特養や介護施設など様々な介護事業を展開している。閑静な住宅街の一角にあり、建物は中庭のある平屋建ての造りで家庭菜園もあり、入居者とともにお世話などを行っている。ユニットケアの考えで、入居者のこれまでの生活歴、好みなどを大切にしており、食事や就寝、起床の時間もそれぞれに合わせて自由に過ごしてもらっている。「夢実現」という取り組みで、入居者の食べたいもの、したいこと、行きたいところなどを聞き取り、実現に向けたサービスの提供を行っている。コロナ禍においての予防も徹底して取り組み、家族の了承のもとガラス越しで面会してもらったり、外部との出入りの度に消毒をしたりと、現在まで一人の罹患も出さなかった。地域の関係も開設以来良好に構築しており、今後ますますの地域福祉の拠点としての活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | <input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------|--------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設理念である「今を生きる」を基本に、各ユニットごとに目標を設けている。施設理念は事務所の目の触れやすい場所に掲示しユニット会議などで唱和し、共有し実践している | 法人のグループホーム部門の理念として共通したものを作成し、共有している。開設時から理念はあったが、より分かりやすくということで、2、3年前に管理者同士で話し合い今のものに見直した。ユニットごとにも目標を設け、個別目標も定めて取り組んでいる。入居者が自分の力を使って「生きる」ことが出来るように日ごろから話し合っており職員も提案しケアにつなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 町内会に加入し地域の行事、花見・夏祭り・文化祭・体育祭・餅つきに参加している。毎年、施設開催の夏祭りには地域住民の方に多く参加していただき、「毎年恒例になってきましたね」とお言葉をいただくようになってきている | 町内会とは友好的な関係を築いており、草刈り機を借りて事業所の草刈りを行ったこともある。地域行事には利用者が数名が継続的に参加しており、地域の夏祭りの際は職員が準備から手伝っている。認知症サポーター養成にホーム長が手伝いに入り公民館で実施したこともある。七夕祭りは地域の子供会と合同開催にしており、今では地域からも楽しみにされている。 | 地域の高齢化が進んでいる中で、地域に向けた認知症の理解を進めていくような情報発信、取り組みを関係者と共に検討して実践されていくことにも期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方に来て頂くだけでなく、催し物を通じて、認知症の方と触れ合う機会を作っている。夢実現やサークル活動を入居者の方に参加していただき、地域の方には温かい対応をしていただいている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回の会議を開き(コロナ禍のため状況報告書を郵送)、入居者の状況やサービス提供などの事業報告を行っている。家族、地域の方の情報交換もできるようにしている | 平時は、自治会長、公民館館長、協力業者、家族代表などに参加してもらっている。入居者の状況、事故などについては定例的に毎回報告している。通常は2か月ごとに開催していたが、コロナ禍では会議開催せず、定期報告を地域や参加者に郵送報告している。通常開催時は家族代表を定め、2か月ごとに交代制で年間6名で担当してもらっている。初期には食事会形式で開催したこともある。 | 議事録に参加者が役職のみで記載されているが、参加予定者と実際の参加者を分けて記録した上で、個人名、職員の参加者、人数なども明記して記録されてはどうか。また、家族の参加が増えるよう、案内、開催日時、開催方式についての検討が続けられることにも期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議への参加は無いため、運営推進会議議事録や広報誌を送付し現状把握してもらっている。包括支援センターの主催により、民生委員とのアンケート調査などに参加している | 地域包括、市職員を含めて運営推進会議の参加がなかったため、今後市とも相談して参加の働きかけについて検討していく考えである。市への問い合わせなどは主にメールでするようになっており、制度上の質問などはメールにて行っている。入居状況などは法人本部から定期的に行うようにしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 居室の鍵を持ちたい入居者の方には、鍵を持って頂いている。居室内の吐き出し窓も、基本施錠は行っていない。 | 玄関を平時は常時開放していたが、コロナ禍では出入りの管理のため職員により電子施錠している。入居者が希望する際は職員見守りの事自由により外出もできる。原則的に拘束をしない方針で、これまでの事例もなかった。内部で身体拘束廃止委員会を組織し、毎月開催、振り返りも行う。拘束についての研修も外部のものなどに参加し、内部伝達もしている。 | |

R2.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 計画作成担当者に、事故ならびにリスクマネジメント研修を行い。計画作成担当者による、OJTにより職員に伝えて言っている職員は外部研修に参加し、ユニット会議で伝達講習を行い虐待が見過ごせれないよう防止に努めている | | |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を申請され、後見人1人・保佐人1人利用されている入居者が居られている。施設からの提案で後見制度を利用されている。 | 外部の後見人を立てられている方がそれぞれおり、入居後に事業所からの支援のもと制度利用に至った方もいる。職員も一般的な制度の理解はしているが、説明や支援が必要な際などは主にホーム長が担当し、パンフレットなどもその都度手配するようにしている。ホーム長が外部の任意後見人でもあり制度については詳しい。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は重要事項を説明し了承を得たうえで契約している また制度改正がある場合などは再度説明し同意書を得るようにする | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 顧客満足度アンケートを、家族に郵送にて行っている。日頃から家族の方には入居者の状況報告を密にしご意見や要望を伺うよう努めている | 毎年の敬老会を家族招待で行い、その際にアンケートを取得していたが、今年は開催延期となり、郵送にて行った。ほぼ全ての家族が定期的に面会にきており、その際に意見や要望などを頂くことが多い。毎月、担当職員により個別のお便りを写真付きで作成して日ごろの様子を報告している。 | 家族が運営主体になっての家族会の実施を計画しているが、コロナ禍で休止状態となっているので、今後の収束後などに実施に向けて再始動されることに期待したい。 |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 同法人の全体会議に職員が出席し意見や提案を述べる機会を与えている | 事業所単独の会議とユニットごとの会議がそれぞれあり、正社員は原則的にどちらも参加し、パート職員はユニット会議に出ている。内装の設えについて話したり、入居者の情報について共有している。意見も上げやすく反映に向けての取り組みもされている。個別面談もあり、その際にアンケートもとられているが、日ごろから相談等はしやすい。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が年間目標を設定し半年に1度面談を行い達成状況や勤務状況の確認を行い働きやすい職場環境に努めている | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 20代から70代の職員が働いており、男女の区別なく雇用し、面接で介護への関わり方、考え方、向上心等を考慮して採用している。個人目標を立ててもらい目標に向けて働けるよう、アドバイスや研修への参加を促進している | 年代の幅も広いが、30～40歳代が比較的多い。男性職員も多く、半々に近い割合で在籍されている。休憩室もあり、休憩時間も確保されている。職員もPCの取り扱いや調理などで得意な分野をケアに生かしている。外部研修の案内もあり職員の希望も聞いて勤務として参加もできる。入れ替わりも少なく、長く勤める職員も多い。 | |

R2.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権学習に参加、人権にかかわる虐待等の外部研修を受講、人権啓発活動のビデオを見て勉強している | 法人によるハラスメント研修で人権についての学習機会をもっている。今は認知症実践者研修に2名が参加しており、人権に関する講義を含めた、資料回覧、内部での伝達研修を行う予定である。 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員教育スケジュールをもとに、職員の目標を設定し、個々の能力に応じ、互いに確認出来るようにチェック表を作成している。必要と思われる外部研修の受講や法人での研修を積極的に行い、向上を図っている | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 関連施設のポート賀茂の計画作成担当者に相互訪問などを行い。お互いに質の向上について相談を行っている。 グループホームのネットワークに参加し意見交換や交流の場となっている | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 「本人の思い」を確認するために、24時間暮らしの情報シートを家族に記入していただいている。施設にはいっても、暮らしの継続が出来るように、入居前に訪問調査、情報収集を行いご本人の要望に対応できるよう努めている | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に、可能な方はご本人にも見学に来ていただき事前に楽しみや要望を聞きよりよい「本人の思い」をサービスに繋がるよう取り組んでいる。契約前のオリエンテーションで、ご家族とのコミュニケーションをとり関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の思いを根拠にし、家族と施設がチームになり、入居者の未来が幸せな事を考え、今必要と思われるサービスを提案している | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者の暮らしの継続の中で、「今を生きる」という意識から、本人の役割を持ち、得意な事や楽しみを、教え合ったり励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 夢実現などの行事ごとに参加のお願いをしたり、遠方に外出する際、ご家族から同行依頼をお受けしている。本人の思いを根拠に、ご家族との気持ちに寄り添い意向を聞きながら、ご本人を中心としたチームとして良い関係が築けるように心がけている | | |

R2.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者の思いを叶えられるように夢実現として、馴染みの場所や、行ってみたいところへ訪問出来るようにしている 夢実現などの行事ごとに参加のお願いをしたり。遠方に外出する際、家族から同行依頼をお受けしている。 | 個別ケアで、入居者それぞれの夢実現にむけたプランを作成、実践に努めており、これまでも遠方への外出や映画館鑑賞、知人との外泊などを実現した。職員の同行が難しい時は家族にも協力をお願いしている。馴染みの理髪店に継続して通う方もいる。冠婚葬祭の参列や墓参などにお連れすることもあった。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士が会話できるよう職員が介入 また、編み物や洗濯物たたみ等ができる方は、一緒に職員としながら支え合える環境作りをしている | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居された方のご家族へ連絡をして様子を聞くなどをしている 看取りの方は49日などに訪問や、初盆には線香を送らせて頂いている。 | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前に、24時間暮らしの情報シートを使い、ご家族へアンケート調査を行っており、その情報をもとに今までの暮らしと変わりが無いように努めている。入居後も、今の生活に合わせて24時間シートを変更し本人本意のケアを行っている | 入居時に家族から記入してもらって24時間シートを作成する。同時に嗜好調査も行うことで1日をどのように過ごしていたか、どのように過ごしたいかを把握することでプラン作成につなげている。見直しも行いその時々での意向の把握に努める。法人として入居者が本人らしく過ごせるようにユニットケアに力を入れており、各管理者がアセスや24時間シートの取り方についても学習して理解を深めている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 暮らしの継続を知るために「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」で情報を集め、それを、自宅といたときと同じ時間の流れを、日々の暮らしの中に取り入れ生活を送れるようにしている | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している また、入居者の表情や言動を注意し現状の把握に努めるようにしている | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 24時間シートから本人の「出来ること・出来るかもしれないこと」をカンファなどで話し合い、ケアプラン作成を行っている。 ユニット会議や申し送り等で出た意見を検討しそれをもとに、24時間シートに反映、更新を行い現状にあったケアができるようにしている | 主に各ユニットの計画作成担当者がケアプランを作成し、プラン目標には本人の思いや言葉が直接反映されるようにしている。プランとは別に「夢実現」として、本人の日ごろの発言などを注意深く把握し記録に残すことで、要望の実現に事業所全体で取り組んでいる。プラン見直しは半年程度で行い、その際に担当者会議も開催し家族や医療機関の情報も参考にしている。日々の実施についても24時間シートと電子記録により把握できるようになっている。 | |

R2.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子を個別記録に記入 気づきがあれば申し送りノートに記入し職員同士で話し合い情報を共有している | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者の体調や状況に応じて食事の形態を変更している。好きな物を提供しており、その時に合った食べる楽しみの提供を行っている | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 「夢実現」で、本人の思いを通して、出前や近隣に出掛けたり、行事や公民館サークル活動に参加を行い楽しむ機会を支援しているが、コロナ禍のため、施設内サークルを立ち上げ、入居者の楽しみにつなげている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の継続でご家族と受診をされる方 ご家族の希望により提携の訪問診療、訪問歯科を契約 日常の様子や体調を提携のクリニックへ報告し連携を図っている | 提携医の場合は2週に1回の訪問診療を受けられるが、外部のかかりつけ医の場合も事業所からの支援を行っており、必要に応じて家族の同行や介助をしてもらっている。訪問診療が受けられるため、事業所の提携医に変えられる方がほとんどである。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 往診の際には、職員が日々感じている入居者の状況を記載し、提携のクリニックの看護師や訪問看護師と手渡しやFAXで報告し、相談や助言をいただいている | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中の本人の不安を少しでも軽減できるように、スタッフ、管理者がお見舞い行くようにしている。状況を見ながら、ドクター・ソーシャルワーカーと退院を含め今後の方向性について、話し合っている | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 今年は、1名の看取り介護を行った。契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明と提案をしている 今後の方針として、介護計画をご本人にとって最適な方法をご家族と一緒に考え、主治医と連携を密にとっていく | 開設当初から看取り支援を行う方針で、契約時の説明と、必要に応じて福岡市のパンフレットなども渡してお話ししている。提携医も看取り対応しており、24時間の連絡体制もとられている。訪問看護との連携も主治医を中心としてその都度の指示のもとに動いている。個別の対応についても主治医等を交えながら職員と話し合って入居者に合った対応が出来るように努めている。 | |

R2.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを作成しており職員の目に付くところに張り出し、直ぐに対応できるように周知徹底をしている 職員に応急手当普及員講習修了者が居るので、定期的にAEDの使用の訓練を行っている | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策マニュアルを作成し総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行い、消防職員立ち会いのもと通報装置の取扱いや水消火器訓練を実施 また定期的に防災委員会を開催している 災害時の備蓄品を備えている | 火災訓練を中心に訓練実施しており年2回の内1回が消防署立ち合いで行うことが多い。自治会に案内することもあり昨年は自治会長にも参加してもらった。備蓄物として、水、コメ、レトルト食品などを3日分程度備えている。豪雨や自然災害時などの際も自治会長と連絡を密にとるようにしている。 | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 毎月のユニット会議にて、ユニットチェックを行い、ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけをしプライドを傷つけないように心がけている プライバシーの確保に注意し、記録などの個人情報の取り扱いの徹底に努めている 家族に日常の状況報告の際は、別室にて行う | 居室のドアの開放、おむつの運搬なども含めてユニットチェックの項目の中で管理し、プライバシーに配慮している。呼びかけについても入居者の希望を聞いて個別に変えることもあり、ユニットケアのあり方として家族にも了承を頂いている。写真利用も含め、個人情報の利用については入居時に説明し書面で同意を頂いている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望に対して職員が聴き、日常の会話からできることや、やりたいことを自己決定できるように支援を行っている 出来るかもしれない探しをする中で、本人の生きる力を、発揮できるように支援している | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 24時間シートをもとに、入居者の暮らしの継続を守るために、「食べて・寝起きて・出す」を生活のベースにし、朝の起床・朝食など入居者の状態に合わせて声かけ、しっかり覚醒してから食事を提供している 一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替える際は、声かけにてご本人に選んでいただく、整容に関しては髭剃りや化粧などを支援し、身だしなみに気をつけ、その人らしさが保てるようにしている | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事については、業者から納入している。入居者と職員と一緒に盛りつけや食器洗い、テーブル拭きなど一人ひとり出来ることを手伝っていただいている 食べたい物があるときは、外出支援として食事に出かけたり、ご家族が持参されたりと食の楽しみを提供出来るよう心がけている | 3食とも調理済み食材の配達業者によってされているが、今後は残渣も減らすために変更も検討中である。毎月1回調理レクの日と、週1の朝食を職員調理で提供するようにしている。職員は別の時間で別途食事している。食べたいの物の希望も聞いて、外食や個別対応などで応えることもある。 | |

R2.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量を記録に残し、一日のトータルが解るようにしている 病状等により水分制限のある方は職員間で情報を共有し支援をしている。捕食を準備し、本人の好きな食べ物を準備し、習慣に応じた支援を行っている | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケア加算を算定している 訪問歯科医による口腔ケア講習を全職員受講し、入居者一人ひとり毎食後ご自身で歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認し磨き残しがないようにしている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 24時間シートをもとに、入居者の暮らしの継続を守るために、「食べて・寝起きて・出す」を生活のベースにし、入居者を定時に誘導するのではなく、本人の排泄パターンに合わせて声かけを行い、リハビリパンツからコットンパンツへ戻している。 | 全員分の排泄状況を管理できる表があり、ユニットごとに毎日チェックしている。トイレ排泄を原則としており、習慣づけたことで徐々に自然排泄が出来るようになった方もいる。放尿のあった方も、薬の見直し、夜間の誘導、トイレの明示などに取り組むことで軽減につながった。排泄委員を定めているが、日々の対応については都度気づいた職員が提案するようにしている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄・褥瘡予防委員から発信し、便秘改善のための運動、水分量の確保、便通を良くする腸活の工夫している。目標は、入居者の排泄に変化に適宜対応し、24時間シートに反映を行い、安心して過ごしていただく | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の日程は決めてはいるが、入居者に伺い決定していただいている。夜間以外はお好きな時間に入っていただけるよう支援している。毎回、お湯を入れ替え、湯温や時間は入居者の希望に添えるように、24時間シートに記載しケアの統一を行っている。 | 浴室も広く、浴槽も三方介助が出来る造りである。基本的には10時～15時の間に週2回程度の入浴だが、夕方や、毎日でも希望があれば対応できる。浴槽の湯も毎回入れ替えて清潔を保っている。個別の希望を把握し、好みの入浴剤やシャンプーなどの利用もできる。皮膚観察の場としても使い、異常の発見時は写真に撮り主治医とも連携をとって対応する。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 24時間シートを活用し、自宅と同じような環境作り、生活習慣の持続が出来るよう心がけている。日中の活動状況に合わせて休息できる時間を支援している | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 居宅療養管理指導の薬局と連携を取り、薬の一包化や錠剤が服用できない方は粉末にしている 薬の効能や副作用の注意点、薬の変更など職員間で共有し確認を行っている | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 暮らしの継続が出来るように、本人の意向好み・出来ることを支援している。本人の思いから「夢実現」につなげている | | |

R2.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日々の会話から入居者の思いをくみ取り、夢実現という形で一月に一度は買い物へ出かけたり食事やドライブに出かけている。玄関のしつらえを行い、ベンチなどを設置している。 | 個別での対応をメインにしているため、ユニットや事業所全体での外出行事は企画しておらず、毎日の散歩に行ったり、買物やドライブ、外食などでそれぞれの希望に合わせた対応をしている。外出意欲の乏しい方に対しても無理強いせず、本人の気分のあつた時などに誘って連れ出すようにしている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者の希望があればお金を所持することが出来る。、買い物や外食の際、所持金より精算していただけるよう支援している | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居時の契約の際、ご家族との連絡の件を話し合い、入居者がご家族とお話したいときは、電話をかけることが出来るように支援している。年賀状や残暑見舞いなど、ご家族に送られる入居者の方もおられる。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | しつらえのコンセプトを煌ユニットが和モダン・雫ユニットが緑のある洋風とし、普通の家の玄関を作り込んでいる。食堂のテーブルの配置、リビングでくつろげる空間作りを行っている。季節の生花を活けたり、オルゴールや昔の名曲の音楽を流す際は音量に配慮している | 中庭とスタッフルームを中心に左右対称にユニットが配置されている。それぞれのユニットで入居者の状態や好みなどを見ながらレイアウトや飾りつけなどを工夫している。家に置かないようなものは飾らない、というコンセプトで掲示物なども施設然としないように気をつけている。ホールの天井も高く、間口や廊下の幅も広く開放感がある。フローリングと木製の調度品で高級感もあり、落ちついた雰囲気がある。ホールには小テーブルも置かれ、好きな所で食事や休憩を取られている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ユニット事に、食事の場・くつろぎの場・記録の場とし環境作りを行っている。好きな場で気の合った入居者同士話が出来たり、独りでくつろげるように椅子やソファを配置している | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時、馴染みのある物を持って来ていただきできる限り自宅に近い環境となるよう、ご家族に協力していただいている。暮らしやすいように入居者、ご家族と相談し部屋配置を考えている。毎月、入居者らしいお部屋について、ユニット会議内で、しつらえの評価を行っている | 位置により居室の広さは若干異なるが、それぞれでも十分な広さがある。介護ベッドとクローゼットが備え付けられており、掃き出し窓からの採光も良い。持ち込みも自由で、ソファやテレビ、冷蔵庫などと持ち込む方もおるが、広いため動線も十分に確保されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ユニットごとに、食事の場・くつろぎの場・記録の場として環境作りを行っている。中庭をパブリックスペースとし入居者同士がくつろげる場所となっている。入居者が洗濯物を干したり、乾いたのを確認でき取り込めるように支援している。全面に手すりを設置しバリアフリーとなっている | | |